神奈川県溶接協会会長　尾茂田剛氏

神奈川県で資格試験を受験した人数はコロナ禍より落ち込んでいたが、回復してきている。コロナ禍は想定より長引いており、今後もコロナ前と同じように活動することは難しいと想定されるが、一等の改正」への対応といった、溶接協会だからこそ、会員企業・団体に伝えるべき内容もあったため、ここ1年は可能な範囲で積極的にイベントを開催してきた。

会員のレベルアップが図れる活動を

千葉県溶接協会会長　廣田二郎氏

経済活動や人との交流がコロナ禍以前の形で実施できる社会情勢に戻りつつある。当協会でも2023年度こそはコロナ禍で開催できなかった協会員向けの工場見学会、溶接技術講習会、巡回技術指導を開催したい。

また、23年度は隣県の茨城県で第68回全国溶接技術競技会が開催される予定で、大会の成功に向けて、当協会としても、できる限りの協力をしていく。

千葉県は京葉工業地帯を有し、バランスの良い産業構造を有しており、溶接関連事業のニーズは高く、仕事量が好調な溶接事業所も少なくない。一方で人手不足が深刻化し、千葉県でも溶接を含めて多くの工程において、外国人技能実習生や特定技能をはじめとする外国人技能者が活躍している事業所も多い。

ウェブ申し込みシステム「e－weld」も活用し、誰にとっても受験がしやすい環境を構築できれば幸いだ。

今後は若い世代に溶接やものづくりの魅力を伝え、技能と技術を伝承していく活動が重要になる。当協会では既に若い世代への溶接技能伝承に向けた活動として高校生および、教育現場の指導者向けに高校生を主体にした溶接研修会と工業高校や工業科の溶接指導者を対象とした研修会を例年開催している。

今後はそれらの取り組みに加えて、範囲を拡大した上で、溶接の魅力を伝える活動に尽力していく。具体的には工業高校や工業科のある高校以外への「溶接出前授業」の実施や、小中学生向けの「ものづくり体験教室」など、溶接に馴染みのない生徒に向けた普及活動の展開を目指している。

また、こうした活動に県内の高度熟練技能者を派遣していくことで、日本溶接協会マイスターのような認定制度に推薦する際に説得力のある実績としていきたい。

e－Weldが着実に普及

埼玉県溶接協会副会長　渡辺修氏

当協会の会員数は約400社で横ばい。溶接技能者評価試験の受験者数は2月末現在で2387人と昨年に比べて254人減少している。昨年4月からスタートした溶接技能者評価試験のウェブ申請システム「e－Weld」の普及率は会員が90％、一般が80％となっており、着実に根付いてきている。

埼玉県溶接技術競技会では、若手溶接士の育成を目的に川越高等技術専門校の生徒が選手として参加している。仕事として溶接しているプロの技能を直接目にし、プロの技能レベルを肌で感じることのできる絶好の機会であり、同校の生徒が卒業後に溶接士として就職するなど、大きな成果をあげている。

当県の鉄構業界は多くの受注を抱え、全般的に好調のようだ。当社でも9月までの大型物件を抱えており、1～2割のフル操業状態が続き、仕事の一部を県外（県内はどこも忙しいため）の外注に回しているほどだ。

仕事が増えると、人手不足が気になるところだが、当社では工業高校出身の若手が友人などを積極的に勧誘してくるため、現在のところ必要な人数は確保している。

また、当社では、やり甲斐をもって働いてもらうため、ある程度、自分の判断で仕事ができるようにしている。このため、必要と判断すれば進んで資格を取得し、残業するなど、仕事の状況を見極めながら積極的に働いてくれる。もちろん、会社では、彼らの働きを全力でサポートしている。ゼネコンの動きをみると、9月移行もフル操業が続きそうだ。若手の教育に力を入れるなど、しっかりと態勢を整えたい。